

## 令和 8 年由仁町議会第 1 回定例会 第 2 号

令和 8 年 3 月 1 2 日 (木)

### ○議事日程

- 1 会議録署名議員の指名
- 2 一般質問
- 3 会議案第 1 号 閉会中の所管事務調査について
- 4 意見書案 生産現場に寄り添った農業政策を求める意見書について  
第 1 号
- 5 議会運営委員会の閉会中の審査について

### ○出席議員（9 名）

|    |     |           |     |     |           |
|----|-----|-----------|-----|-----|-----------|
| 議長 | 9 番 | 後 藤 篤 人 君 | 副議長 | 8 番 | 早 坂 寿 博 君 |
|    | 1 番 | 中 村 隆 浩 君 |     | 2 番 | 東 貴 之 君   |
|    | 3 番 | 野 市 裕 司 君 |     | 4 番 | 大 畠 敏 弘 君 |
|    | 5 番 | 加 藤 重 夫 君 |     | 6 番 | 浮 田 孝 雄 君 |
|    | 7 番 | 佐 藤 英 司 君 |     |     |           |

### ○欠席議員（0 名）

○出席説明員

|   |   |   |    |   |   |   |
|---|---|---|----|---|---|---|
| 町 |   | 長 | 松  | 村 | 諭 | 君 |
| 副 | 町 | 長 | 田  | 中 | 利 | 行 |
| 教 | 育 | 長 | 石  | 井 |   | 洋 |
| 代 | 表 | 監 | 吉  | 田 | 弘 | 幸 |
| 総 | 務 | 課 | 青  | 木 | 祐 | 次 |
| 地 | 域 | 活 | 青  | 山 | 裕 | 志 |
| 住 | 民 | 課 | 河  | 合 | 高 | 弘 |
| 産 | 業 | 振 | 関  | 澤 | 和 | 之 |
| 保 | 健 | 福 | 三ヶ | 田 | 恵 | 理 |
| 建 | 設 | 水 | 中  | 道 | 康 | 彦 |
| 会 | 計 | 管 | 秋  | 山 | 健 | 一 |
| 町 | 立 | 診 | 桐  | 越 | 佳 | 世 |
| 教 | 育 | 課 | 大  | 塚 | 郁 | 代 |
| 農 | 業 | 委 | 泉  |   | 陵 | 平 |
|   | 員 | 会 |    |   |   |   |
|   |   | 事 |    |   |   |   |
|   |   | 務 |    |   |   |   |
|   |   | 局 |    |   |   |   |
|   |   | 長 |    |   |   |   |

○出席事務局職員

|   |  |   |   |   |   |   |
|---|--|---|---|---|---|---|
| 局 |  | 長 | 野 | 島 | 健 | 君 |
| 主 |  | 事 | 土 | 谷 | 練 | 君 |
| 主 |  | 事 | 荒 | 井 | 日 | 奈 |
|   |  |   |   |   |   | 君 |

◎開議 午後 1時30分

◎開議の宣告

○議長（後藤篤人君） ただいまの出席議員は全員出席です。

よって、本日の会議は成立いたしましたので、これから会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付したとおりです。

◎日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（後藤篤人君） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第127条の規定によって、5番 加藤君、6番 浮田君を指名いたします。

◎日程第2 一般質問

○議長（後藤篤人君） 日程第2、一般質問を行います。

一般質問においては、1名の議員から通告されております。

質問者、加藤君の発言を許します。

加藤君

○5番（加藤重夫君） ヒグマ駆除対策について町長にお伺いします。

近年全国各地でクマの被害が相次ぎ発生しています。道内各地においてもヒグマの出没が多発し、昨年においては人身被害が20件以上確認されるなど、過去5年間で最もヒグマの出没情報が多い年となり、市街地付近においてヒグマによる人身被害が発生するおそれが非常に高まったときなどに北海道ヒグマ管理計画に基づき発出されるヒグマ警報が2022年に制度が開始されて以来初めて福島町全域を対象に発出され、その後札幌市西区にも発出されました。また、ヒグマによる人身被害の発生が懸念されるときなどに発出されるヒグマ注意報においても15市町村で発出されるなど、市街地付近でもヒグマが頻繁に出没し、これまで安全であると思っていた所でも人身被害や農業被害が発生しています。ヒグマの生息数増加や食料不足、気象条件の影響などが複合的に作用し、今後も生息範囲や行動範囲が拡大すると言われていたにもかかわらず、道内においてもハンターの高齢化や人材不足が大きな課題になっています。当町においてもヒグマの足跡や目撃情報が確認されていることから、ヒグマ駆除に対応できるハンターの状況と新たなハンター確保に向けた対策についてお伺いいたします。

○議長（後藤篤人君） 町長

○町長（松村 諭君） 加藤議員のヒグマ駆除対策についてのご質問にお答えをいたします。

議員ご質問のとおり、近年全国各地でクマの人の生活圏への侵入が相次ぎ、人身被害が多発しております。昨年は道内においてもヒグマによる死亡事故が発生したところであり、ヒグマ警報やヒグマ注意報が複数の自治体で発出されるなど、市街地付近での被害リスクは非常に高まってきております。本町におきましても昨年は4件の目撃情報が報告されて

おり、住民の安全確保は本町にとっても重要な課題の一つであります。このような状況を踏まえまして、町ではヒグマの出没情報があった場合、さらにはヒグマが日常生活圏に侵入またはそのおそれが生じた場合に関係機関が連携して円滑かつ適切に対応できるよう由仁町ヒグマ出没対応マニュアルを策定したところであり、令和８年度当初予算にその体制整備に必要な費用について計上したところであります。

ご質問１点目のヒグマ駆除に対応できるハンターの状況についてであります。現在有害鳥獣駆除に従事していただいている１６名のハンターの全ての方をヒグマ捕獲対応を行う由仁町鳥獣被害対策実施隊に任命しているところであり、そのうち１１名が駆除のための銃器を所持している状況であります。

ご質問２点目の新たなハンター確保に向けた対策についてであります。狩猟免許試験に係る事前講習会の受講費用について助成しているほか、今年度からは新たに狩猟免許試験の申請に係る諸費用についても助成を拡充するなど、新たな担い手の確保に向けて支援を行っており、来年度につきましてもハンターの増員が見込まれているところであります。ヒグマの捕獲・駆除は危険性が高く、地形や個体の行動を見極めながら対応する必要があるため、経験や知識を有する人材の確保と育成が重要であると考えております。今後におきましてもこれらの制度の周知を強化し、新たな担い手の確保に積極的に取り組むとともに、関係機関と連携しながら実践的な訓練を実施するなど、ヒグマ対策に対応できる人材の育成に一層努めてまいります。

○議長（後藤篤人君） 加藤君

○５番（加藤重夫君） ただいま町長の答弁にありましたように、由仁町の有害鳥獣駆除員は現在１６名ということで伺っております。２０代から８０代の方々が活躍されていることに対しまして感謝申し上げる次第でございます。

環境省では、２０２６年度の当初予算案にクマ対策費として過去最大の６２億円を計上し、箱わなの設置、果樹の伐採、ガバメントハンターの人件費などを盛り込んでおります。昨年、２０２５年の道内におけるヒグマの目撃情報や痕跡に関する情報は、昨年１２月２９日までの通報では５，２４９件と２０１４年以降最多となり、ハンターの高齢化や担い手不足によって十分に対応し切れていない状況となっていることから、クマ駆除のハンター確保対策の強化が急務となっているところでございます。

２０１１年に全国で初めてガバメントハンターを導入した自治体として長野県の小諸市がよくマスコミに取り上げられております。道内でもガバメントハンターを導入している自治体が幾つかあるようです。北海道におきましても２０２６年度予算でガバメントハンターを３名程度採用し、道南、道東の振興局に配置する方針で調整されているようでございます。一般的にヒグマなどによる被害が報告されると猟友会に所属するハンターが現場を確認し、その後、捕獲の判断は、行政が捕獲が必要な場合は改めてハンターに駆除を依頼しますが、ガバメントハンターを導入している自治体は行政の役割も担っておりますので、ガバメントハンターが現場で捕獲判断ができることから、改めて駆除依頼することのないため、スムーズに捕獲対応ができると伺っております。また、一部の自治体ではクマ

対策にドローンを導入し、熊の監視、追い払いに活用している事例もあります。

そこで、再質問なのですが、当町においてヒグマ対策の有効な手段と言われるガバメントハンターやドローンの導入についてこれまで検討されたのか、また導入に関してどのように考えているのかお伺いして、この2点質問して質問を終わりたいと思いますので、答弁のほどよろしくお願いします。

○議長（後藤篤人君） 町長

○町長（松村 諭君） 加藤議員の再質問にお答えをいたします。

本町におきましては、由仁町鳥獣被害対策実施隊の皆さんの協力の下に、ヒグマの出没情報があつた際の現場確認や状況に応じパトロールを実施するなど、地域住民の安全確保のためにこれまで対応してきたところであります。町といたしましても実施隊の皆さんには多大なるご尽力をいただいておりますことに改めて感謝を申し上げる次第でございます。

ご質問のガバメントハンターの導入につきましては、専門的な知識と技能を有する人材を配置することで現場での迅速な判断と対応を可能とする制度として北海道内におきましても一部自治体で導入が進められておりますが、当町の導入に関しては人材の確保や運用面での課題があることから、現時点で具体的な検討は進んでいない状況であります。一方、ヒグマ駆除の現場経験者が限られているといった課題もあることから、今後は北海道や近隣1市4町で構成する南空知広域有害鳥獣被害防止対策協議会といった広域的な枠組みの中で導入の可能性などについても検討してまいりたいと考えております。

（「ドローン」の声あり）

○町長（松村 諭君） 大変失礼いたしました。答弁漏れがございましたので、ドローンについてお答えをさせていただきます。

当町におきましては、過去に南空知消防組合由仁支署が保有するドローンを活用し、ヒグマの捜索を行っているところであり、今後も消防と連携しながら状況に応じた対策を講じていきたいと考えております。いずれにいたしましても、住民の安全確保が最優先であります。北海道や関係機関との連携を一層強化し、ヒグマ対策の充実に努めてまいります。

○議長（後藤篤人君） 加藤君

○5番（加藤重夫君） 昨年近隣町村でも、隣の夕張では夕張メロン120玉が食い荒らされ、約60万の被害があつたという報告があつたり、福島町では新聞配達員がヒグマに襲われ死亡するというような痛ましい事故があつたり、三笠市においては公営住宅にヒグマが侵入し、81歳の女性が掃除機でクマを追い払つたというようなニュースも皆さん記憶に新しいのではないかなと思っております。ベテランハンターが減少する中、ヒグマの駆除は専門的な知識と高度な訓練、技術が必要とされております。新規に免許を取得したハンターへの技術の継承が十分でなければ実戦投入はできないと考えております。ヒグマ駆除に関わるハンター育成は経済的な負担も大きく、時間もかかります。住民に対しては

ヒグマ対策の重要性や意義について理解を深める啓発活動も必要ではないかと考えております。ヒグマをはじめとする有害鳥獣から町民の大切な命、そして財産を安全に守り、町民が安心して暮らせる社会になることを求めまして私の質問を終わらせていただきます。終わります。

○議長（後藤篤人君） 以上で日程第2、一般質問を終わります。

◎延会の議決

○議長（後藤篤人君） お諮りいたします。

本日の会議はこの程度にとどめ、明日3月13日から3月17日まで休会とし、3月18日に本会議を開くこととして、本日はこれで延会といたしたいと思いますが、ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（後藤篤人君） ご異議なしと認めます。

よって、本日はこれをもって延会とすることに決定いたしました。

◎延会の宣告

○議長（後藤篤人君） 皆さんに連絡いたします。

3月18日の開議時間は午前9時半からといたしますので、時間までにご参集願います。ご苦労さまでした。

◎延会 午後 1時46分

上記会議の次第は書記をして記載せしめたものであるが、その内容が正確なることを証するため、ここに署名する。

議 長 後 藤 篤 人

5 番 議 員 加 藤 重 夫

6 番 議 員 浮 田 孝 雄